



と
霧
れ

Fare to Qe

花と新聞の定期便

三月 第12号
Fare to Qe
March 2018

チューリップ

[今月の農園]

株式会社センティア (富山県砺波市)

チューリップ球根の生産では50年以上の歴史を持つ農園。
その伝統と豊富な栽培経験を活かし、
現在ではチューリップの切り花を生産。
高品質で多種多様な品種のチューリップは、
花卉（かき）業界で定評を得ている。



旬の逸品

霽
れと
葵

三月

Fare to Qe
March 2018



チューリップ

株式会社センティア（富山県砺波市）

春の風物詩として子供から大人まで広く愛されている、チューリップ。ぱっくりと可愛らしく、色鮮やかなその姿は、見ているだけで気持ちが明るくなります。そんなチューリップのもう一つの魅力と言えば、何と言ってもその生命力。切り花になった状態でも茎が伸びるだけでなく、花びらが開いたり、閉じたりと、驚くほどよく動き、日々違った表情を見せてくれます。

今回ご協力いただいたのは、チューリップの名産地、富山県で50年以上チューリップ栽培を手掛けてきた株式会社センティア（以下センティア）さん。高湿度で夏場が涼しい砺波市の気候のもと、長年の経験と知識、そして世界基準の先進的な技術を駆使して栽培された逸品をお楽しみください。

お届けしたチューリップの特徴

花姿

センティアでは、球根をコンテナに植える栽培方法を取り入れています。コンテナの土は、毎シーズン養分を豊富に含んだ新しい土で入れ替えるため、土壌で栽培したものよりも、ボリュームのある花ができます。

切り前

センティアでは、蕾にしっかりと色が乗り、飾った際に花が最も美しい状態を長く楽しめる、最適な咲き加減のチューリップを探花しています。タイミングを見定める知見と、こまめな採花を可能にする設備の両方を持ち合わせたセンティアならではの特徴です。

品種

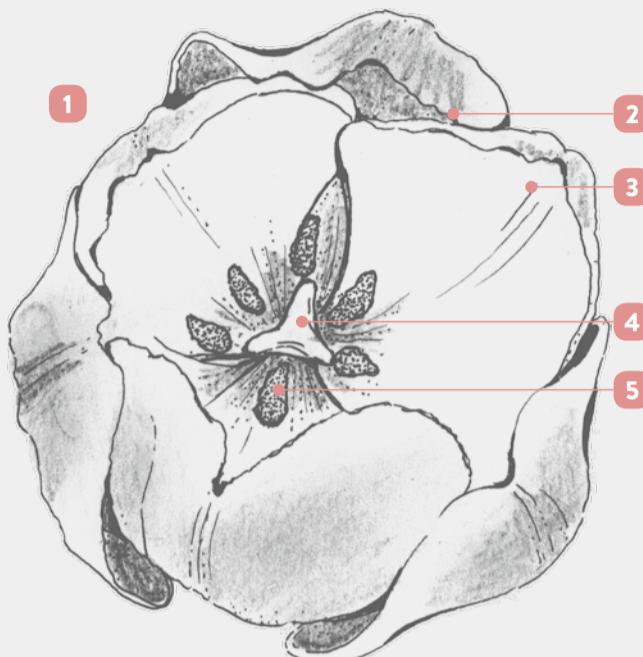
広く扱われている定番の品種に加え、オランダから直接入手した最新の品種など、バリエーションに富んだチューリップを栽培しています。それぞれに個性があるため、色や形など違った魅力を楽しめます。



お届けした花の情報は、Instagramでも
随時配信しております。ぜひご覧ください。

@fare_to_qe





花図鑑

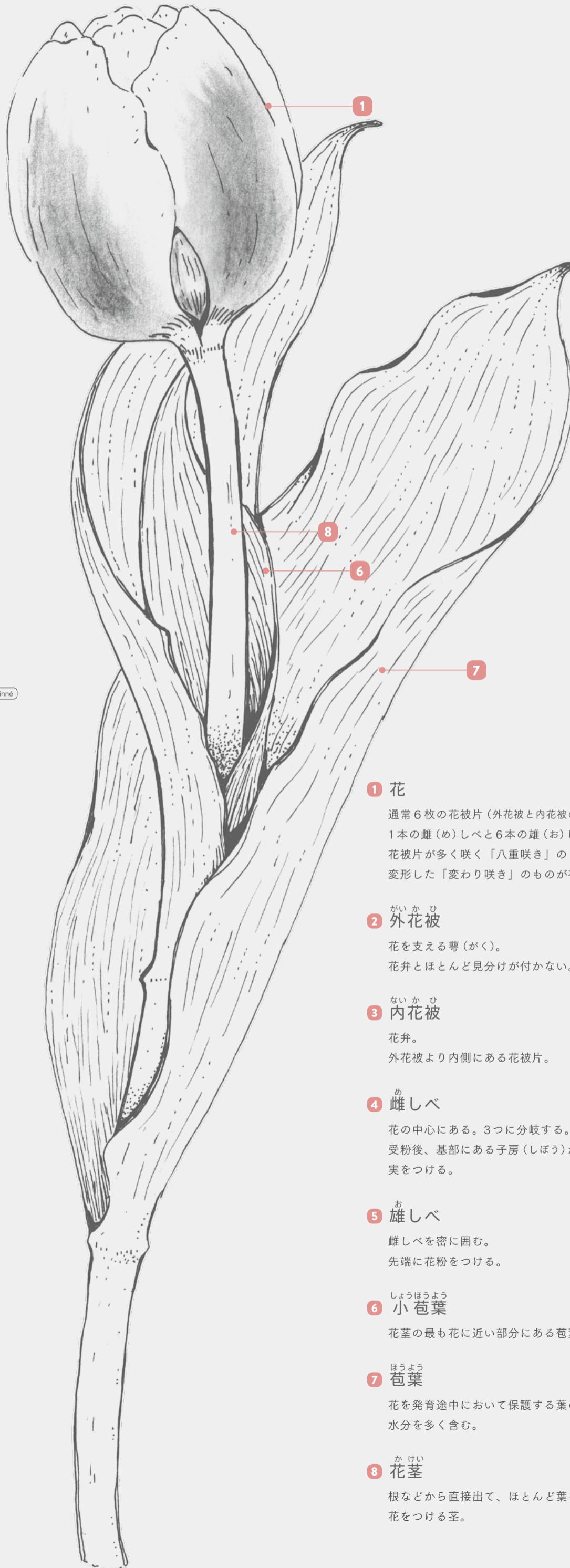
学名: *Tulipa gesneriana L.*
 (tulbend)ターバン + 命名者 Conrad Gessner + スウェーデンの植物学者 Carl von Linné

和名: 鬱金香 (ウコンコウ)
 英名: Tulip
 分類: ユリ科チューリップ属
 原産地: トルコ
 主な開花期: 3月~5月

世界中で親しまれているチューリップは、ユリ科チューリップ属の球根植物です。チューリップの栽培や消費が盛んな国といえば、オランダを思い浮かべる方が多いかと思いますが、実はトルコのアナトリア地方が原産です。「チューリップ」の名前も、トルコ語でターバンを意味する「tulipan (チューリパン)」に由来します。

チューリップが初めてヨーロッパに紹介されたのは、16世紀。当初は貴族など上流階級の人々の間でのみ鑑賞されており、一種のステータスのシンボルとして珍重されていたそうです。その愛らしい姿に当時の人々は熱狂し、17世紀のオランダでは人類の歴史で初のバブル経済として知られる「チューリップ・バブル」が起きました。「チューリップ・マニア」と呼ばれた愛好家たちの間で球根が異常な高値で売買され、球根1つと家が交換される驚きの事態も発生したと言われています。後に「チューリップ・バブル」は弾けこととなりましたが、その後もオランダでは庶民の間で愛される花として定着し、今ではチューリップの生産量で世界1位のシェアを誇るチューリップ大国となりました。

そんなチューリップが日本に伝わったのは、1860年代と言われています。大正時代に本格的な球根栽培が始まるまでは数が少なく、やはり上流階級など、ごく一部の人々の間で観賞用として取り引きされていました。和名は「鬱金香 (ウコンコウ)」。ウコンのようなほろ苦い香りがすることから、こう呼ばれていたそうです。今は昔のように異常な奪い合いに発展することはなくなりましたが、チューリップはその変わらぬ愛らしい姿で世界中の人々を魅了し続けます。



1 花

通常6枚の花被片 (外花被と内花被のこと) と1本の雌 (め) しべと6本の雄 (お) しべからなる。花被片が多く咲く「八重咲き」のものもや、変形した「変わり咲き」のものが存在する。

2 外花被

花を支える萼 (がく)。花弁とほとんど見分けが付かない。3枚ある。

3 内花被

花弁。外花被より内側にある花被片。

4 雌しべ

花の中心にある。3つに分岐する。受粉後、基部にある子房 (しほう) が膨らみ、実をつける。

5 雄しべ

雌しべを密に囲む。先端に花粉をつける。

6 小苞葉

花茎の最も花に近い部分にある苞葉。

7 苞葉

花を発育途中において保護する葉のこと。水分を多く含む。

8 花茎

根などから直接出て、ほとんど葉をつけず、花をつける茎。

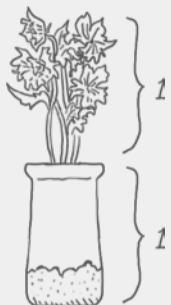
チューリップの愛で方

基本の下準備

▶ 道具

□ 花瓶

花の長さに合ったものを選びます。花の長さと花瓶の高さの割合は1:1が基本。



□ 花バサミ

家庭用の鉢でも代用可能。切れ味の良いものを選びます。

▶ 水切り

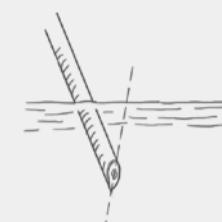
まずは、水切りで水の通り道を確保。綺麗な水を張った容器の中に茎を入れ、ハサミで茎の先を切れます。茎の切り口を新しくしてあげることで、茎から花全体に水を運ぶ"道管"が水を吸い上げやすくなるのですが、空気中で茎を切ると道管に空気が入り込み水の通り道を塞いでしまうがあるので、水中で行うのがポイントです。



▶ 毎日1回 メンテナンス

□ 水を交換する

水を交換する：道管を詰まらせるバクテリアの繁殖を抑えるために水を清潔に保つのが、花を長持ちさせる秘訣です。



□ 茎の先を斜めに切る

茎の先を切る：切り口を新しくして、水の吸い上げを良くしてあげます。

STEP 4 活ける

基本の花瓶活け

チューリップは切り花になっても、とても活発。花びらが開いたり閉じたりする上に、茎がぐんぐん伸びます。翌日、全く別の方向を向いていることも。そんな自由なチューリップの性質をありのまま楽しめる基本の花瓶活けです。あまりコントロールしようとせずに、気を楽にして活けましょう。



チューリップの独特的なフォルムを楽しむには、透明なガラス花瓶がおすすめ。茎の緩やかなカーブに沿って、片側に流すように活けると上品です。



チューリップのフレッシュな花色は白い花瓶に良く映えます。あえてあちこち向かせてあげると元気な印象に。



飾り方いろいろ

単品でざっくりと活ける定番の飾り方以外にも、チューリップを素敵に飾る方法はたくさん。その時その時の茎の曲がり方や花の状態に合わせて、飾り方を変えるのもまた、チューリップを飾る際の醍醐味です。

1. ガラスジャーに活ける

ガラスジャーに活けてカジュアルな印象に。口が少々すぼまっているので、花を固定しやすいという利点もあります。

2. 花瓶の中に入れる

茎が伸びて花瓶の縁から垂れ下ってしまったら、背の高い細身の花瓶にすっぽりと入れてみても素敵です。数本、ランダムな長さにカットして活けるのがポイント。

3. 器を変えて楽しむ

ラフに活けて楽しめるチューリップは、花が固定さえされれば、どんな器に活けても素敵にまとまります。いろいろ試して遊んでみては。

4. 他の花と合わせる

個性的で色鮮やかなチューリップは単品でも素敵に飾れます。他の花と合わせてみても、また違った魅力を発揮してくれます。チューリップと同じ彩度の、鮮やかな色合いの花と合わせると、互いに良く馴染み、春らしいアレンジに。

STEP

1 見栄えの悪い葉を取り取る



チューリップは、花を包み込むような大きくて瑞々しい葉が魅力的。なるべく取らずに残すことをおすすめしますが、変色していたり垂れ下がっていたりと見栄えが悪いものは取り除きます。チューリップの葉は下に引っ張



ると、茎が剥けて傷みの原因になるので、必ず横方向に手でゆっくりとちぎります。フラーナイフやカッターなどを使うと切り口が綺麗に仕上がるのですが、手元にある場合は使用するとよいでしょう。

STEP

2 長さを調整する



お好みの長さにカットします。花の茎は斜めに切るのが基本ですが、チューリップの場合は茎が柔らかく潰れやすいので真っ直ぐに切ります。

STEP

3 花瓶に水を張る



チューリップのように茎が柔らかい花は、水の中で傷みやすい性質を持っています。そのため、花瓶の水は浅く張り、茎が水に浸かる部分を少なくします。水量が少ないと水下がりする花が多い中、チューリップは水を吸い上げる力が強いので、浅水でも問題ありません。

温度と光に敏感なチューリップ

チューリップは、温度や日光に敏感な花です。朝から昼にかけて花びらが開き、昼から夜にかけて気温の低下と共に閉じていく。1日の中でも様々な変化が見られます。ただし、チューリップの花びらを開いたり閉じたりする動作は、花のエネルギーを消費しながら行っています。暖房でお部屋の温度を暖め過ぎると、花が開きすぎて老化を早めてしましますので、置き場所を変えるなどして、低めの温度をある程度一定に保ってあげましょう。

同じ日に農園から届いたチューリップ。
飾る部屋の温度で開き加減が違うのが分かります。



STEP

5 メンテナンス

最初は花を包み込む用に上を向いている葉は、日が経つにつれて張りがなくなり、段々と外側へ垂れてきます。見栄えが悪くなったものはSTEP1と同様に、丁寧に取り除きます。

Produced by

ex. flower shop & laboratory

HP www.ex-flower.com

[店舗情報] 上原店、中目黒店、蔵前店でお待ちしています！

INTERVIEW

農園インタビュー

株式会社センティア 伊藤 仁嗣さん

北陸地方をはじめとする日本各地が記録的な大雪に見舞われた2月、編集部は今回特集する株式会社センティア(以下センティア)を取材しに、北陸新幹線で富山県砺波市へと向かいました。最寄りの駅に降り立つと目の前に広がっていたのは、東京から来た私たちには見慣れない、真っ白な雪景色。無事に農園にたどり着けるのかと不安になりましたながら待つこと数分、吹雪の中から黒いパンが颯爽と現れました。迎えてくれたのは、大きな声とハキハキとした話口調が印象的な、センティアの2代目伊藤 仁嗣(いとう ひとし)さん。この農園は最先端の栽培方法を取り入れ、チューリップにおいて国内トップクラスの生産量を誇ることで知られています。そこにはどんな秘密が隠されているのでしょうか。ハイシーズンの忙しいスケジュールの合間を縫って、伊藤さんが農園を案内してくれました。



時代と共に変化し続けて50年

›富山県といえば、チューリップの球根の产地として名高いですが、センティアさんが主力品目を球根から切り花へ移行されたのはなぜですか？

うちも、創業当時はチューリップの球根のみ生産していました。ですが、30年前にオランダ産の球根が大量に輸入されるようになったのをきっかけに、輸入が少ない切り花を始めて、そこから徐々に量を増やしてきました。

›センティアさんは創業50年以上と古くからある農園では珍しく、農協などには属さずに自社ブランドで生産をされていますが、そこにはどんな理由があるのでしょうか？

うちも、一般個人向けにチューリップのギフト販売をしていて、当時はギフト専門の農協に属していました。ですが、ギフトは注文が特定の時期に偏りがちで生産が安定しないという理由で、その農協からは脱退しました。独立した当初は、周りから無謀だと言われましたけど、当時からずっと右肩上がりで出荷量を増やせています。

›厳しい意見もある中、毎年の出荷量を伸ばし続けて、今や花卉業界でセンティアの名前が広く知られる存在になれたのはなぜですか？

私が継いでからは、農園の規模を拡大して、出荷本数を伸ばすことを重視してきたので、その成果が現れたんでしょう。

長年の経験と最新設備との融合

›具体的にはどのようなことをされたのですか？

とにかく、設備に投資しました。温室内には「可

動式ベンチ」を設置して、その上でコンテナに球根の植え込みをしていく「ボックス栽培」を取り入れました。温室の環境はデータで管理して、効率的かつ安定的に高品質なチューリップを生産できるようにしました。

›センティアさんの栽培方法は全国的に見ても先進的に思えますが、やはり日本ではまだまだ珍しいですか？

オランダなどでは広く用いられていますが、国内でここまで本格的に設備投資をしているのは、現時点ではセンティアだけです。既存の生産方法でもそれなりに収入が得られる中、これだけの設備投資をしてまで、出荷本数を増やそうとする農家がそもそも少ないんでしょうね。

›伊藤さんは農園を継がれてから一貫して、規模拡大と生産量の増加をテーマにされていますが、そこにこだわりを持たれる理由はなんですか？

もし、花卉業界に関わる人間が全体として持てる目標があるとすれば、それは「世の中に花好きな人を増やすこと」なんだろうと思います。それに對して花の生産者ができることといえば、今まで花を買う習慣がなかった人に「飾ってみようかな」と思ってもらえる花を作ること。具体的には、高品質の花を、買いややすい価格で、広く、安定的に提供することだと信じて、今は取り組んでいます。

飾った人の体験を大切に

›そんなセンティアさんが作るチューリップですが、一番の魅力は何でしょうか？

最新のものを含め豊富な品種が揃っていることと、切り前(採花したタイミングでの花の成熟具合)です

ね。

›確かに、温室の中には一見しただけでも本当に様々な品種がありました。センティアさんは、他の農園に先駆けて毎年新しい品種を出荷している印象ですが、どうやって手に入れているのですか？

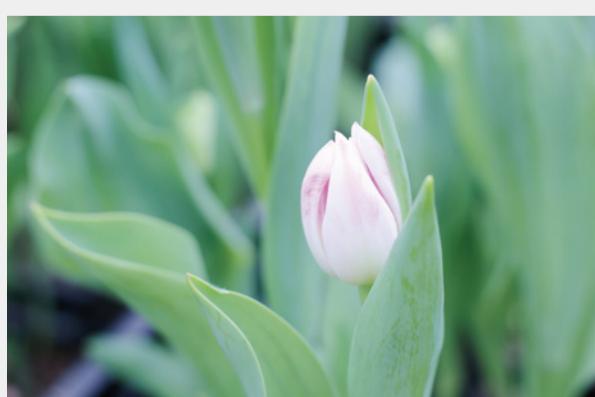
農園を継ぐ前に研修でオランダにいたのですが、その間にできたネットワークを通して入手しています。研修期間は1年程度が一般的ですが、私は2年半滞在していました。帰国してからも毎年オランダに足を運んで、現地の人と信頼関係を築いてきました。その甲斐あってか、まだ出荷されていない最新品種なども譲ってもらえたことがあります。

›切り前に関して特別気を付けられてるのはどんなところですか？

蕾にしっかりと色が付いて、花瓶に活けてから美しい状態を最も長く楽しめる、絶妙なタイミングを狙って採花します。蕾が緩み始めるとそこからは一気に開花が進んでしまうので、ほとんどの農園では蕾がまだ若くて硬い頃に採花してしまっています。

›飾ってからのことまで考えられるのはなぜですか？

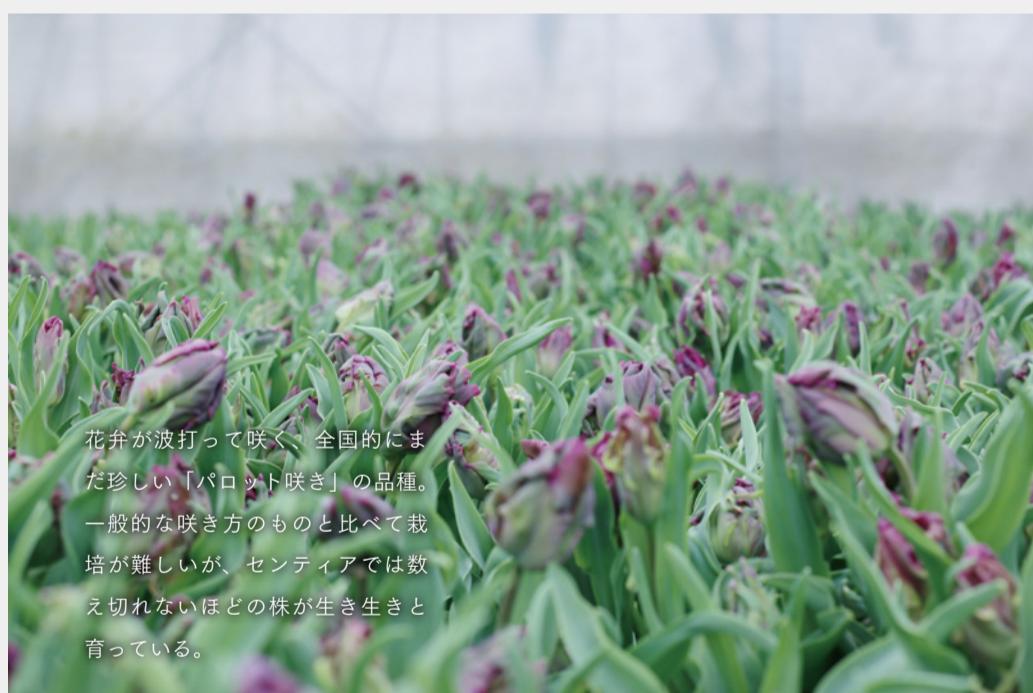
うちも設備投資で全体の作業を効率化できている分、お客様の手元に届いた時をイメージして、切り前など細かい部分に気を配ることができます。花好きを増やすためにも、購入して、飾って、枯れるまでの体験をどれだけ良いものにできるか。それが私の仕事です。



株式会社センティアの 花仕事



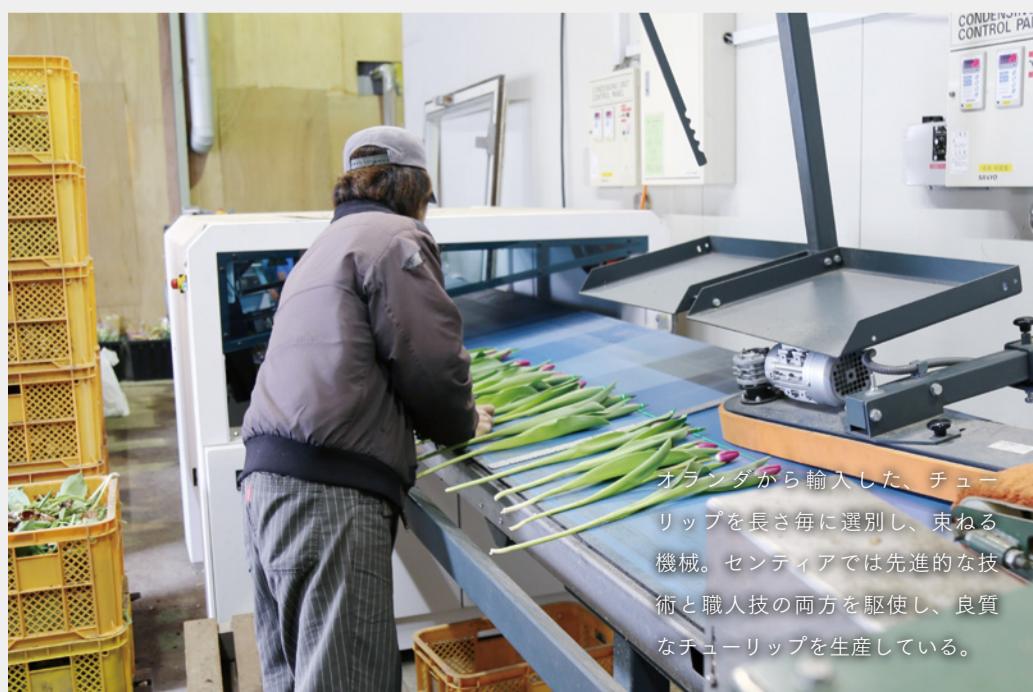
分刻みで開花具合が変化する蕾を最適なタイミングで採花するため、センティアでは1日に2回採花を行う。蕾が硬過ぎると、花弁の色付きが不十分であったり、蕾が開かないことも。また、硬い蕾が開いたとしても、その時には既に花が多くのエネルギーを消耗してしまっているため、散るまでの期間が短くなる。反対に緩みすぎても、花屋の店頭に並ぶ前に開ききってしまう。採花する最適なタイミングを判断し、見定めるには細心の注意が必要。



花弁が波打って咲く、全国的にまだ珍しい「パロット咲き」の品種。一般的な咲き方のものと比べて栽培が難しいが、センティアでは数え切れないほどの株が生き生きと育っている。



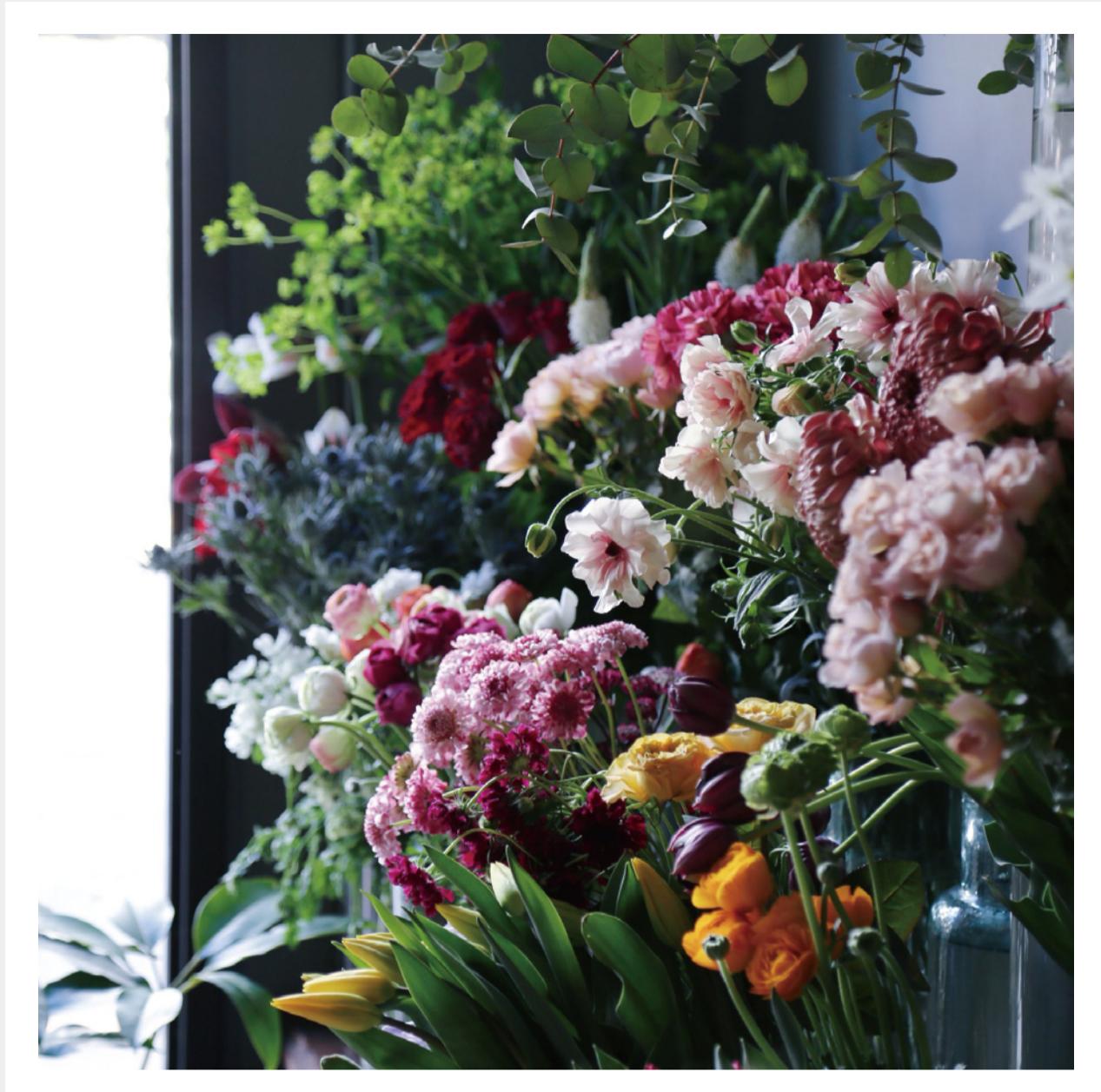
チューリップはハウスのスペースを有効活用するため、可動式ベンチに乗せた、コンテナに植え付けた。さらに腰を曲げず効率的な作業も可能にするこのシステムを本格的に取り入れているチューリップ農園は、全国でセンティアだけ。



オランダから輸入した、チューリップを長さ毎に選別し、束ねる機械。センティアでは先進的な技術と職人技の両方を駆使し、良質なチューリップを生産している。



品質の高さは業界のお墨付き。「マリット」という品種は、日本で最大の花の流通規模を誇る(株)大田花きが、その年で最も優秀とされた花を表彰する「フロワーオブザイヤー」の特別賞を受賞。



＜皆さまの投稿お待ちしております＞

Instagramで花のある暮らしをシェアしてみませんか。3月号の『チューリップ』の写真に、ハッシュタグ「#霧れと葵」を付けて、ぜひご投稿ください。

編集後記

こんにちは、代表の田中です。今回取材させていただいたセンティアの伊藤さんに初めてお会いしたのは、丁度1年前。当時の霧れと葵はまだ構想段階で、農家さんにスポットを当てたサービスを作れないかと、色々な方に相談をしていた時期です。そんな中、市場や知り合いの花屋さんから「センティアさんは品質良いし、勢いがある！」と聞いたので、直ぐに連絡をとり、農園を訪問しました。繁忙期にいきなりお邪魔したにも関わらず、私の想いに耳を傾けてくれて、農家さんの立場からの確なご意見をいたいたいのを、昨日のように覚えています。「花と新聞の定期便」の記念すべき初号の取材先、梨元農園の梨元さん(2017年4月「スズラン」)もその時にご紹介いただき、伊藤さんには感謝してもしきれないくらいです。今回こういった形で、1年越しでご一緒に出来るのは感慨深く思います。

霧れと葵の生い立ちを語るにおいて欠かせない存在の伊藤さんですが、チューリップの出荷が始まると同時に超多忙な毎日を迎えます。昼食を取る暇もない中、日々の意思決定を鈍らせないために、8時間の睡眠時間は必ず確保しているそうです。その上、家族との時間もきちんと確保しているということには感服しました。もちろん、自分の時間など殆どなく、飲み会の類も全くと言って良いほど顔を出さないとか。ひとつひとつ形が整っていて、美しく色付いたチューリップからは、そんな生真面目で芯が通った作り手のお人柄を感じ取っていただけるかと思います。ぜひご堪能ください。

次回のお届けについて

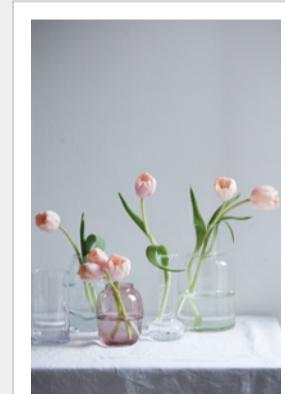
来月号は **ラナンキュラス** をお届けする予定です。
花と新聞の定期便では、四季折々の旬の花をお届けします。
詳細は、SNS (Facebook, Instagram) にて随時ご案内いたします。
今しばらくお待ちください。

＜ご意見・ご感想お待ちしております＞

霧れと葵はみなさまのご意見、ご感想を大切にしたいと考えています。よりご満足いただける花のある暮らしをお届けできるよう、是非お聞かせください。

HP www.faretoqe.com
MAIL info@faretoqe.com

表紙の写真について / 撮影・コメント: 増田由希子さん



ガラスベースを複数並べ、伸びやかに活けてみました。
窓辺に置くとガラスに光が透過して、チューリップが瑞々しく輝いているように見えます。

[プロフィール] Instagramを中心に、世界中に数多くのファンを持つフラワースタイリスト/ワイヤー作家。雑誌でも「暮らしの花」を提案している。

MAIL @nonihana_
HP <http://fplus.s2.weblife.me>

Information >>>

毎月届く、花のある暮らし

Farm to Vase

花のある暮らしをプレゼントしたい方に
花と新聞の定期便
ギフトチケット

Gift Ticket

大切な人にも「花と新聞の定期便」を贈りたい方は、霧れと葵ギフトチケットをご利用いただけます。お届け期間・ご予算をお選びいただけるので、様々なシーンに寄り添います。

<input type="checkbox"/> 1か月 ギフトチケット	3,500円(税別)
<input type="checkbox"/> 3か月 ギフトチケット	9,500円(税別)
<input type="checkbox"/> 6か月 ギフトチケット	18,500円(税別)



各種お申込みは、霧れと葵ウェブサイトにて

www.faretoqe.com

ギフトチケットのお届け終了後も、
継続したい方に

花と新聞の定期便

Q Floral Life



ギフトチケットのお届け期間が終了してしまったけれど、今後も花のある暮らしを続けたい方は、「花と新聞の定期便」にお申込みいただけます。一度お申込みいただければ、旬の花と新聞を毎月お届けします。

毎月 / 3,000円(税別)

お気に入りの花瓶をお探しの方に
霧れと葵オリジナル花瓶

Original Vase



花のある暮らしに欠かせない、花瓶。霧れと葵は、フラワースタイリスト・増田由希子さんと、陶器ブランド・SUEKIの協力を得て、花がより美しく見える色、形、質感を追究したオリジナル花瓶を製作しました。

6,000円(税別)